

# 目次

I 章 はじめに		II 章 背景知識	
<b>1</b>	<b>ガイドライン作成の経緯と目的</b>	<b>1</b>	<b>呼吸困難のメカニズム</b>
1.	これまでのガイドライン作成・改訂の経緯 (2011年版, 2016年版)	1.	呼吸の調節機構
2.	2023年版改訂の経緯	2.	呼吸困難の発生
3.	ガイドラインの目的	①	呼吸困難の発生に関与する受容器
4.	2023年版における主な改訂点	②	呼吸困難の発生のメカニズム
<b>2</b>	<b>ガイドラインの使用上の注意</b>	<b>2</b>	<b>呼吸困難の原因</b>
1.	使用上の注意	1.	呼吸困難の原因
2.	構成とインストラクション	①	原疾患に関連した原因
3.	他の教育プログラムとの関係	②	原疾患治療に関連した原因
<b>3</b>	<b>作成過程</b>	③	原疾患とは直接関連しない原因
1.	概要	<b>3</b>	<b>呼吸困難の評価</b>
2.	臨床疑問の設定	1.	呼吸困難の評価尺度
3.	系統的文献検索	①	呼吸困難の量的評価尺度
4.	推奨文の作成	②	呼吸困難の質的評価尺度
5.	推奨文の確定	2.	医療従事者による呼吸困難の評価
①	1回目のデルファイラウンド	3.	身体所見と検査
②	2回目のデルファイラウンド	①	問診
③	3回目のデルファイラウンド	②	身体所見
④	外部評価委員による評価	③	検査所見
6.	日本緩和医療学会の承認	<b>4</b>	<b>がん患者の呼吸困難に関連する特定病態</b>
<b>4</b>	<b>推奨の表現（推奨の方向，強さ，エビデンスの確実性）</b>	1.	胸水
1.	推奨の方向	①	定義
2.	推奨の強さ	②	疫学
3.	エビデンスの確実性	③	病態・症候
4.	推奨の強さとエビデンスの確実性の臨床的意味	④	治療
<b>5</b>	<b>用語の定義と概念</b>	2.	がん性リンパ管症
		①	定義
		②	疫学
		③	病態・症候
		④	治療
		3.	上大静脈症候群
		①	定義
		②	疫学

③ 病態・症候	36	4. 看護ケア	62
④ マネジメント	36	① はじめに	62
4. 主要気道閉塞(major airway obstruction ; MAO)	38	② 呼吸法のトレーニング	62
① 定義	38	③ 移動の補助, ポジショニング	64
② 疫学	38	④ セルフマネジメントと教育	65
③ 病態・症候	38	⑤ まとめ	67
④ マネジメント	38	5. 呼吸リハビリテーション	68
<b>5 呼吸困難以外の呼吸器症状</b>	40	① 呼吸リハビリテーションの目的と定義	68
1. 咳 嗽	40	② 呼吸リハビリテーションに関わる職種	68
① 定義	40	③ 呼吸リハビリテーションの構成要素	68
② 疫学・頻度	40	④ 呼吸リハビリテーションの効果	71
③ 原因・分類・病態生理	40	6. 心理療法	72
④ 評価・診断	41	① 呼吸困難に対する心理療法	72
⑤ マネジメント	42	② 有効な可能性がある心理療法	72
2. 死前喘鳴	47	<b>7 呼吸困難の治療に使用する薬剤</b>	78
① 定義	47	1. オピオイド	78
② 疫学・頻度・影響	47	① オピオイド	78
③ 原因・分類・病態生理	47	② モルヒネ	78
④ 評価	47	③ オキシコドン	78
⑤ マネジメント	48	④ フェンタニル	79
3. 血痰・咯血	50	⑤ ヒドロモルフォン	79
① 定義	50	⑥ オピオイド吸入	79
② 疫学・頻度	50	2. オピオイド以外の薬剤	80
③ 原因・分類・病態生理	50	① ベンゾジアゼピン系薬	80
④ 評価・診断	50	② コルチコステロイド	80
⑤ マネジメント	52	<b>8 非がん進行性疾患の呼吸困難に対する薬物療法</b>	86
<b>6 呼吸困難に対する非薬物療法</b>	55	1. COPD/間質性肺疾患患者の呼吸困難に対する症状緩和薬物療法	86
1. 酸素療法	55	① モルヒネ（およびその類似薬）	86
① 定義	55	② オピオイド以外の薬剤	87
② メリットとデメリット	55	2. 心不全患者の慢性呼吸困難に対する症状緩和薬物療法	88
③ 一般的な適応	56	① モルヒネ（およびその類似薬）	89
2. 高流量鼻カニューラ酸素療法(high flow nasal cannula oxygen ; HFNC)	57	② モルヒネ以外のオピオイド	90
① 定義	57	③ オピオイド以外の薬剤	91
② メリットとデメリット	58	3. 筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の呼吸困難に対する症状緩和薬物療法	92
③ 一般的な適応	58	① オピオイド	92
3. 送風療法	59	② オピオイド以外の薬剤	93
① 概要	59		
② 研究報告	59		
③ 臨床での実際	60		

### Ⅲ章 推奨

#### ● 推奨の概要 96

#### 1 進行性疾患患者の呼吸困難に対する非薬物

##### 療法 97

##### 臨床疑問 1-1

安静時低酸素血症があり呼吸困難を有する進行性疾患患者に対して、酸素吸入を行うことは呼吸困難の緩和に有用か？ 97

##### 臨床疑問 1-2

安静時低酸素血症がない、または軽度にとどまるが呼吸困難を有する進行性疾患患者に対して、酸素吸入を行うことは呼吸困難の緩和に有用か？ 101

##### 臨床疑問 2

低酸素血症があり呼吸困難を有する進行性疾患患者に対して、高流量鼻カニューラ酸素療法 (high flow nasal cannula oxygen : HFNC) を行うことは呼吸困難の緩和に有用か？ 122

##### 臨床疑問 3

呼吸困難を有する進行性疾患患者に対して、送風療法 (顔への送風) を行うことは有用か？ 126

#### 2 がん患者の呼吸困難に対する薬物療法 131

##### 臨床疑問 4-1

呼吸困難を有するがん患者に対して、モルヒネ全身投与は有用か？ 131

##### 臨床疑問 4-2

呼吸困難を有するがん患者に対して、オキシコドン全身投与は有用か？ 136

##### 臨床疑問 4-3

呼吸困難を有するがん患者に対して、ヒドロモルフォン全身投与は有用か？ 138

##### 臨床疑問 4-4

呼吸困難を有するがん患者に対して、フェンタニル全身投与は有用か？ 140

##### 臨床疑問 4-5

呼吸困難を有するがん患者に対して、モルヒネ吸入は有用か？ 144

##### 臨床疑問 5-1

呼吸困難を有するがん患者に対して、ベンゾジア

ゼピン系薬の単独投与は有用か？ 146

##### 臨床疑問 5-2

呼吸困難を有するがん患者に対して、ベンゾジアゼピン系薬をオピオイドに併用することは有用か？ 149

##### 臨床疑問 6-1

呼吸困難を有するがん患者に対して、コルチコステロイドの全身投与は有用か？ 152

##### 臨床疑問 6-2

がん性リンパ管症による呼吸困難を有するがん患者に対して、コルチコステロイドの全身投与は有用か？ 155

##### 臨床疑問 6-3

上大静脈症候群による呼吸困難を有するがん患者に対して、コルチコステロイドの全身投与は有用か？ 157

##### 臨床疑問 6-4

主要気道閉塞 (major airway obstruction : MAO) による呼吸困難を有するがん患者に対して、コルチコステロイドの全身投与は有用か？ 159

### Ⅳ章 今後の検討課題

#### 1. 推奨項目について 162

- ① 酸素療法 162
- ② 高流量鼻カニューラ酸素療法 (HFNC) 162
- ③ 送風療法 162
- ④ オピオイド 162
- ⑤ ベンゾジアゼピン系薬 162
- ⑥ コルチコステロイド 163
- ⑦ その他 163

### Ⅴ章 資料

#### 1 臨床疑問の設定 166

#### 2 文献検索式 174

#### 3 ガイドライン作成者と利益相反 186

#### 索引 191